東京食肉市場卸商協同組合がタイで和牛輸出プロモーション

日本畜産物輸出促進協議会・牛肉部会（実施主催は東京食肉市場卸商協同組合）は4～7日にかけ、タイ・バンコクの国際展示場バイテック（BITEC）で和牛肉の展示とプロモーションを行った。実施体制は、東京食肉市場卸商組合所属9社（コシヅカ、東京食肉市場、小川畜産興業、富士化学、吉澤畜産、原田畜産食品、オーエムアイ、宮畜産、日山畜産、事務局）18人と日本畜産物輸出促進協議会・牛肉部会のミートコンパニオン、エスフーズ、スターゼンインターナショナルの3社。

会場には冷蔵のショーケースが置かれ、輸出形態の大きなブロック肉とサーロインステーキ用、サーロインバーベキュー用、サーロインすき焼き用、リブロースステーキ用、リブロース焼き肉用、リブロースすき焼き用、リブキャップバーベキュー用などが並べられ、いずれの部位にもしっかりと「和牛統一マーク」が張られ、国産和牛の統一感をアピールした。

開会のあいさつで卸商組合の腰塚源一理事長は「東京食肉市場は日本一の食肉マーケットであり、日本全国からおいしい牛肉がたくさん集まってくる。今回は日本の和牛のおいしさと安全性について説明にきた」と抱負を語り、さらに米澤達樹専務理事が「東京市場には日本全国の優秀な銘柄和牛が集まるが、それを取り扱う卸商がその素晴らしい和牛のすべてを皆様に紹介したい」と説明を行った後、焼き肉としゃぶしゃぶの試食を提供した。

和牛のカッティングを実演した、ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役は「タイのマーケットでは比較的、和牛に対する認識は持っていただいている。

ただ、日本には47都道府県があり、たくさんの銘柄牛が存在している。今回は和牛統一マークの旗印の下で、東京食肉市場卸商組合の方がたにそれぞれの地方の特徴や気候風土、肉質の特徴と安全性を直に現地の方に説明してもらうことができた。実際に荷口を扱う方がたなので、臨場感や現場感が直に表現されており、今までにないプロモーションになった」と述べた。

豚マルキン、平成28年度第1四半期は交付なし

農畜産業振興機構は9日、平成28年度第1四半期の養豚経営安定対策事業（豚マルキン）の養豚補填金について、平均粗収益が平均生産コストを上回ったことから交付しないことを発表した。